

# 学校法人村上学園

## 村上学園 MURAKAMIGAKUEN

二〇二〇年(令和二年)八月四日発行  
発行元(発行責任者)  
学校法人村上学園 法人事務局  
参事(広報担当) 寺川 誠  
東大阪市西堤学園町三二一  
電話 〇六六七八一二四四四  
URL <https://www.murakamigakuen.jp/>



学園のシンボルの鹿(7/17撮影)

### 東大阪大学柏原高等学校

## 「アスリート寮」新築着工へ (令和三年二月竣工予定)

(株)キンキマネジメント・(株)スカイホームとのコラボレーション

東大阪大学柏原高等学校にはスポーツコートが設置されており、硬式野球・バドミントン・サッカー・柔道等、全国大会出場を目指す多くの生徒が学んでいます。大阪府下からは勿論のこと、隣接府県をはじめ、遠隔地からの入学者もあり、全国制覇を目指し、日々勉強やスポーツに励んでいます。通学困難な生徒たちのために、現在、「敬愛寮」を設置していますが、近年、留学生の増加に伴い手狭になってきていることや入寮希望者の増加等から、新たにスポーツコースの寮の必要性が高まっていました。

今般、ご縁があり、キンキマネジメント株式会社様ならびに管理運営会社としてのスカイホーム株式会社様と寮建設に向けた協議を重ねることができました。柏原高校担当者(強化部顧問)の寮設置への熱い思いを受け止めていただき、七月初旬、両者で新しい生徒寮「アスリート寮」の建設を進めることと協議がまとまり、契約締結の運びとなりました。

現在、建設に向け役所への建築申請手続きを進めており、間もなく認可される予定です。九月には着工し、来年二月に竣工、三月には入居可能となる予定です。

村上学園(東大阪大学柏原高等学校)と民間会社二社とのコラボレーションで建設される「アスリート寮」は、本校から国道一七〇号線(外環状線)に沿い、南へ二五〇mほど

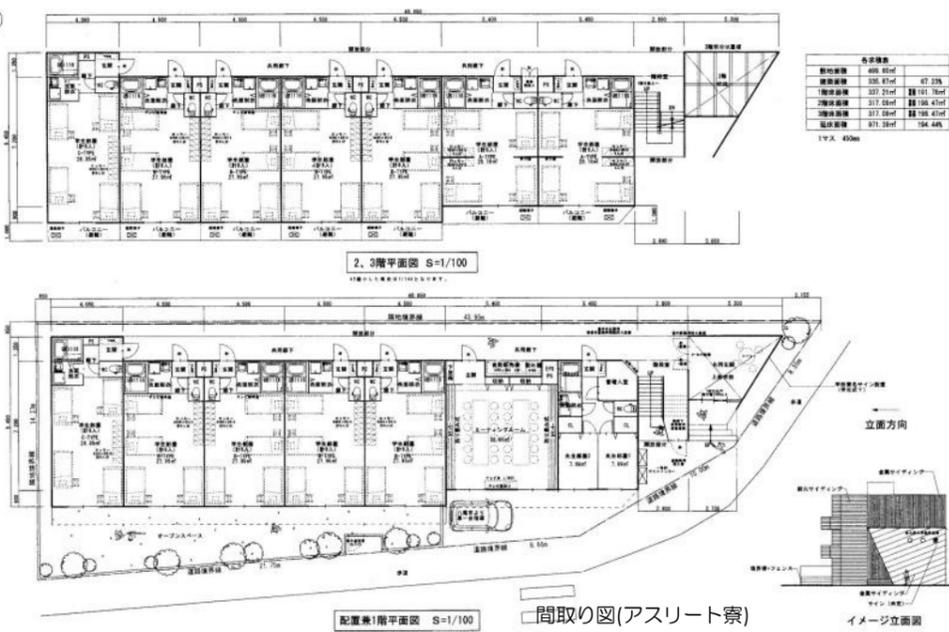
行った場所(八尾市沼)に建設されます。本寮は敷地面積約五〇〇㎡、木造三階建、一九室(約二八㎡/一部屋、約一五〇名収容)、二段ベッド、風呂、トイレ、エアコン、洗濯機、冷蔵庫等の設置がなされる予定です。

スカイホーム株式会社代表取締役の服部淳一氏は、大学まで硬式野球をしておられたことから、「この寮の建設が、土井監督の下で、再度の甲子園出場への一助になればうれしいことです。」と語っていらっしゃいました。また、「学生寮建設は初めてで、快適な寮運営に学校とも連携し協議しながら進めていきたい」とも話されていました。学園(学校)にとって大変ありがたい話であり、選手の皆さんは、これらの声にこえられるよう日々の勉強にスポーツに励んでもらいたいと思います。

「つべん」を目指すアスリート諸君、新築なるアスリート寮に入寮し、思いきり勉強やスポーツに励んでみませんか。全国制覇の夢をかなえてみませんか!

#### 【「アスリート寮」の概要】

- ・敷地面積:約五〇〇㎡
- ・木造三階建て(収容人員一五二名)
- ・一九部屋(約二八㎡/一部屋)



- ・一部屋当たり六〜八人入居予定
- ・ミーティングルーム(約三七㎡)他
- ・施設及び付帯設備
- ・風呂、トイレ、エアコン、洗濯機、冷蔵庫
- ・ロッカー(貴重品ロッカーも)、WiFi等

#### ☆紙面案内

- 1面:アスリート寮着工へ  
「あんしん」のたわごと
- 2面:夢をつかむ(進路を考える)②
- 3面:東大阪大学敬愛高校  
東大阪大学柏原高校  
東大阪附属幼稚園
- 4面:Murakamigakuen Art-Gallery 9  
:編集後記

## 「あんしん」のたわごと ⑥

### ～「あんしん」のたわごと録(抜粋)～

◎人間は働くために生まれてきた。(働いて考え、考えて働き、豊かな文明文化を築いてきた。)だから、勤労とは、やはり誠心であり誠意でありたい(私の反省から)

◎一流の教職員を育て、一流のその人に支えられるリーダーになりたい。それは、一流のリーダーとして道を歩んでくれることが多い。(小学校長時代思ったこと)

◎一芸は万芸に通ず。一つのこと学校経営せよに全力投球している中で、やがてあらゆるものの視界が開けてくる。(イチロウの野球伝より)

◎世の中は嫉妬とソロバン(損得)である。嫉妬は、インテリほど強いと思う女性以上に男の方は強くこわい。(最近思っこと)

◎「オしげやらずに誰がやる!」が肝要だ。オしげこする。自分なりの決意結論を出すため、一流の情報、一級の意見を集めることに、日頃よりその事のために努力しておきたい。(中・高校との話し合いから)

◎松下電器の基本方針とは、会長、社長はじめ幹部は、社会の全ての人々を師表(手本)と仰ぎ、大事なお得意様と考え、常に礼節を重んじ、謙虚な態度で接することに率先垂範すると同時に、全従業員にこの重要性を徹底せよ。(幸之助伝、120%訴え論)

◎……理事長先生だっって迷っていることもある。「私はこうします」という対応を上申せよ。そのため、管理職はホソをかみしめ、一定の強い覚悟で臨め。

(故岡崎安伸先生の遺稿より)

- ◎人間は、月々きちんと給与が定期的に入ってくるのと何か暮らせると思った時から、意欲・情熱が失われる。悪しき心を持つこともある。(自分の反省から)
- ◎ものごとを行う者にとって、ものごとを行わない者は最も苛酷な批判者である。(リーダーとしての覚悟)
- ◎楽しさは、厳しさの中からは生まれにくい。(甲子園出場)
- ◎教師の仕事は、出来の悪い子を救うこと。(きめ細かさ)
- ◎教え子に感謝し、恩返しをしたい。
- ◎「逃げたら一生後悔する」という踏ん張り
- ◎想定外という言葉の意味は、何も考えていないという思考停止に等しい。原発は悪だ、止めろ、という単純な結論、思考回路は同じ。
- ◎一所(生)懸命自分の仕事をこなし、素晴らしい成功し管理職になった人のことを、怠け者が論評するとき、これを「幸運」であると言つ。(仕事熱心な者こそ悪評もある)
- ◎勝利とは、流した汗と涙(くやしき、うれしさも含め)の量で決まる。(甲子園出場)
- ◎どんな戦いも勝因よりすべて敗因にある。必ず負けた方に、その原因がある。人生も同

## 夢をつかむ(進路を考える)② ～アーティスト(芸術家)として生きる～

前回の「進路を考える」(第五号掲載)は、東大阪大学柏原高等学校のある生徒が、自分の就きたい職業を追いかけ実現する生き方を、学級通信の記事を基にお伝えしました。今回は、学園関係者ではありませんが、第八号で紹介した私の友人で、ニューヨークに住む、アーティストとして活動中の中山誠弥さんの生き方を紹介します。進路を考えるきっかけに、少しでも役立ててもらえれば幸いです。

現在、ニューヨークを拠点にアーティストとして活動している中山誠弥(ナカヤママサヤ)です。

今回、縁があって文章を書かせてもらう事になりました。進路や将来を考える皆さんに、こんな人生もあるんだと知ってもらい、次の世界に踏み出すきっかけにもなれば嬉しいです。

### 【アーティストへの転身のきっかけ】

僕は、もともと小さい頃から絵を描くことは大好きでした。ゲーム機を買ってほしいと頼んだ記憶もなく、家で作業をしたり絵を描くのが一番の楽しみでした。父親も幼い頃から絵が得意だった事を大人になつてから知って、親子の妙な繋がりが不思議と嬉しかった記憶があります。

高校は普通科に進みました。周りの皆が進路

つに

て考え始める頃になり、「今、この学年の中で、自分が将来一番になれる道ってなんだろう」と探した記憶があります(今思えば規模が小さ過ぎるね。せめて日本で一番くらいは考えよう)。進学校だったこともあり勉強では敵うはずもなく、スポーツも特別に秀でているわけでもない自分が、一番になれる可能性を含む道は、幼い頃から大好きで続けてきた絵を描くことだけでした。少し遅い進路の決断でしたが、なんとか芸術系の大学に進むことができました。そして、また進路を考える時期がやってきました。職業として、絵描きで食べていくなかで「夢物語」のように、当時の自分の中ではあまりリアリティがありませんでした。だから、取ってその選択肢は見ないようにしていたのだと思います。それでも絵に繋がる仕事があればとの思いから、東大阪市の公立中学校で美術科の教員として働き始めました。今でもこの経験が、自分の人生において本当に大切な時間であったと感じています。

教員生活最後の年、三年生の担任をすることになり、進路という生徒の大きな岐路に携わることになります。そこで、教師として生徒に向き合う自分自身の生き方を見つめ直す機会をもらいました。夢を持つ大切さを説く自分自身が、その言葉に見合うだけの生き方をしているのか。キラキラした瞳で夢を語る生徒に、この先もずっと恥ずかしくない生き方をしているのかと強く思うようになりました。同僚の仲間にも恵まれました。その中でも、特に個性的な(変わりもの)先輩教師が、ある日突然、『アメリカの大学院に行くから教師を辞めるわ』と言い出しました。びっくりして、『なんでやねん』と聞いてみると、『人生は一回きりや』と。そんなもう何万回も聞いたような言葉が出てきて、でもなぜか胸にドシンときたことを覚えています。そんな時、僕の気持ちを知らずか、『チエルシーって街知ってる?』と聞かれました。チエルシーは、ニューヨークにあるアートギャラリーが密集する地域で、世界のアーティストが作品を発表する場所として有名です。『アートに関わる人生なら、一回は住んでみるとな〜!』と言われ、なぜかその瞬間に『行くこう』と決断したのでよく覚えてます。スイッチが入る時って突然くるものです。世間一般にはかなり遅い挑戦になりました。ほとんどの人が無謀だと言いました。(そんなのはマジで気にしなくていい)それが二九歳のことで

### 【ニューヨークになつた】

昔から英語は苦手でした。ニューヨークでの最初のご飯では注文してもいけないチーズバーガーが三つ出てきました。『頼んでないよ!』とも言えない自分の語学力を憂い、一人ぼっちの部屋で寂

しく食べたのも、今ではいい思い出です。新しい生活は全てが刺激的でしたが、それと同時に己の無力さを痛感する毎日でした。つい先日まで、生徒からも保護者からも当たり前のように「先生」と呼ばれていたことが、急に恥ずかしくなりました。先生という肩書がなくなれば、文字通り一人の人間でしかなくなったのです。

路上で水をかけられ、自転車で乗った少年たちに囲まれて汚い言葉でののしられた時に、はじめ自分がここでは差別される立場である事を知り、差別についても、自分が本当の意味で何もわかっていなかったのだと気づきました。

自分以上に日本の現状について知っているアメリカ人の友達が出来た時には、自分の生まれ育った日本のことすらあまり語れない自分を恥じました。

少し脱線しましたが、アーティストとして生きていくために来たニューヨーク。当然ながら甘くはなかったです。アーティスト達のコミュニティへの入り方も分からず日々自分の部屋で目のみない作品を作る日々。生きるためのバイトが忙しくなると絵を描く余裕も失い、何のために来たのか目的を見失いそうな日もありました。

初めて絵が売れたのは、渡米から約三年後のこと。ブルックリンに借りていたスタジオに遊びに来た少年が、スケッチブックの絵を一枚一ドルで買いたいと言ってきました。最初は冗談だと思ったし、その年齢にとつての一ドルは貴重だとも思ったので、『どうして欲しいの?』と聞くしよ?』と。まさに衝撃でした。日本では、中学生がお小遣いから一〇〇〇円出して、知らないおじさんの絵なんて絶対買わないでしょう。年齢に関係なく、周りの評価や流行を気にせず、自分の感性で好きか嫌いかを判断できる素晴らしい文化があることに気づいた瞬間でした。

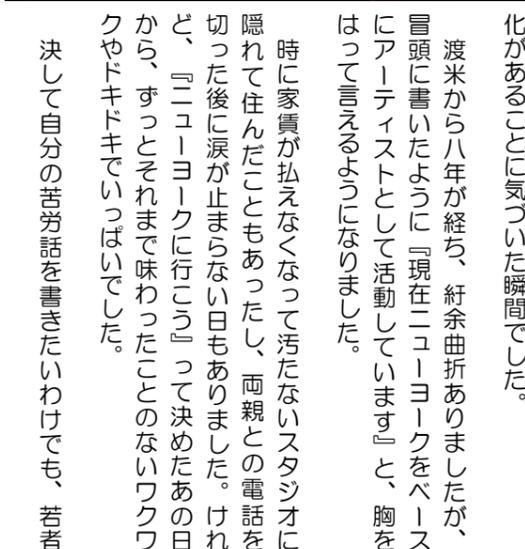
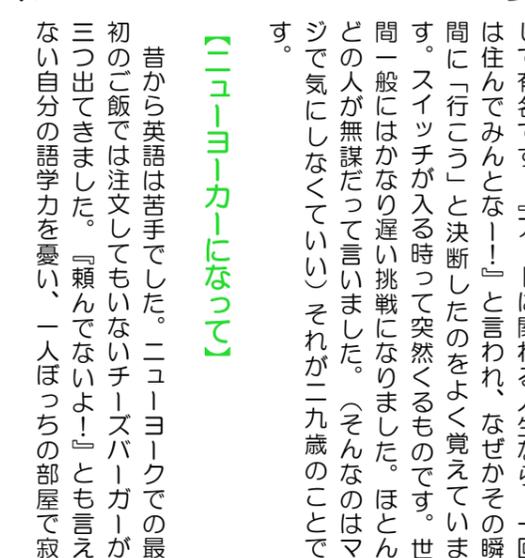
渡米から八年が経ち、紆余曲折ありましたが、冒頭に書いたように『現在ニューヨークをベースにアーティストとして活動しています』と、胸をはって言えるようになった。

時に家賃が払えなくなつて汚くないスタジオに隠れて住んだこともあったし、両親との電話を切った後に涙が止まらない日もありました。けれど、『ニューヨークに行くこう』って決めたあの日から、ずっとそれまで味わったことのないワクワクやドキドキがいついっしょいっしょでした。

決して自分の苦勞話を書きたいわけでも、若者



中山誠弥さん(ブルックリンブルフリーで)



「K5(東京日本橋兜町)」にオープンした「B(地下1階)」の壁画と制作者

Good luck!!

中山誠弥さんのプロフィール(一九八三・三月生)

大阪芸術大学美術学科卒業後、東大阪市立中学校教員を経て、二〇一二年渡米。現在、ニューヨーク・ブルックリンを拠点にアーティストとして活動中。

米国クラフトビールのパイオニア「ブルックリンブルフリー」のミューラルアート(壁画)や東京日本橋兜町にある旧第一銀行をリノベーションしたマイクロ複合施設「K5」の地下一階に、二〇二〇年二月一日オープンした「ブルックリンブルフリー」の世界初のフラッグシップ店「B」のミューラルアートを手掛ける。

# 東大阪大学敬愛高等学校

緊急事態宣言が解除されたとはいえ、まだまだ収束したとは言えない状況が続いています。特に医療現場では、日々厳しい状況の中での医療が継続されています。

東大阪大学敬愛高等学校では新型コロナウイルス感染症と闘っている医療従事者の方々に少しでも応援したいという思いから、7月4日(土)までの期間、野球部・サッカー部・吹奏楽部の生徒たちが、JR高井田中央駅改札前で、新型コロナウイルス対応支援のための募金活動を行いました。



今回の活動は、生徒たちが休業期間中に、プロ野球界で多くの支援活動が

## 街頭募金活動

(新型コロナウイルス対応支援)

行われていることを知り、自分たちにも何かできないかということをお話し合い、実現したものです。

生徒たちはこの日のために、大きな声での呼びかけ等ができないので、工夫し目立つような看板を作成しました。

生徒たちの自主的な活動に先立ち、募金に協力いただいた市民の皆様、本当にありがとうございました。



JR高井田中央駅頭での募金活動風景

## 東大阪市より感謝状をいただきました

七月一日、東大阪大学敬愛高等学校生徒会が、東大阪市より感謝状をいただきました。

本校生徒会は、高齢者、障害者福祉のための東大阪市地域福祉基金へ、長年にわたり寄付を

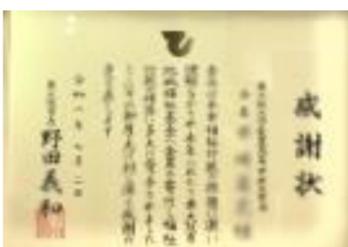


野田東大阪市長より感謝状の贈呈

今後も、より一層地域に愛され信頼される学校となるよう、活動を続けていきたいと思います。(東大阪大学敬愛高等学校HPより)

続けています。

この度、東大阪市の福祉行政推進に貢献してきたことを高く評価され、感謝状をいただけることになりました。生徒会長が代表して受け取りました。



贈呈された感謝状



野田東大阪市長とともに記念写真

## 東大阪大学附属幼稚園

## 七月です！七夕です！ 「お誕生会」&「七夕会」をしました(7/7)



七夕飾りの短冊に思いを込めて！

「ひこぼしにあえますように」・「おりひめにあえますように」



七月生まれのおともだちのお誕生会を行いました。今月は、密を避けるために学年ごとに分かれて行いました！  
七月は、七夕です。七夕会をしました。彦星さまと織姫さまの登場です！  
子どもたちは、まさかの彦星・織姫の登場に驚きを隠せない様子。彦星さまは、年に一度しか会えない織姫さまを探しに来たようです。同じように、織姫さまは彦星さまを探しに来たようです。  
ふたりがどうしてはなればなれになってしまったのかというお話を聞きながら……

彦星さまの短冊に書かれたお願いは……  
「おりひめにあえますように」  
織姫さまの短冊に書かれたお願いは……  
「ひこぼしにあえますように」  
七月七日「七夕」の日に願う事が叶うように願いを込めて……  
子どもたちも一緒に祈りして、つるつると言っていました。  
みんなのおかげで、今日の夜にはお空の上でふたりは会えることになりました。



左：彦星の登場 下：織姫の登場

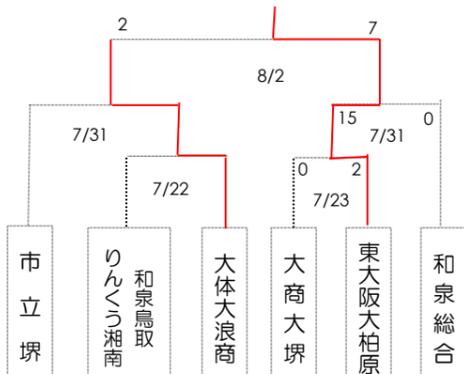


最後には「たなばたさま」のお歌を手に表現して、お誕生会&七夕会を締めくくりました  
七月生まれのおともだち、お誕生日おめでとう！  
（東大阪大学附属幼稚園ブログより）

## 東大阪大学柏原高等学校

### 一回戦、大商大塚に完封勝ち(野球)

新型コロナウイルスの蔓延により、七月開催予定であった東京オリンピックが一年間先送りとなるシームで一回戦が行われ、強豪とともにインターハイをはじめと「大商大塚」相手に「2対0」のする全国大会の中止も決定されましたが、地方での大会は、密にならぬことを避けながら開催され始めています。夏の風物詩でもある高校野球は、春・夏ともに開催が見送られましたが、それに代わるものとして、「令和二年大阪府高等学校野球大会」が七月一八日から、「くらすた塚」「久宝寺」「花園」「シテイ」「南港」「豊中」「万博」の各球場を舞台に開催されています。  
残念ながらコロナ感染防止対策のため、当該校の3年生保護者(2名)と部員以外は入場できません。でも、応援はよろしくお願ひします。



# Murakamigakuen Art Gallery (9)

今号の「Murakamigakuen Art Gallery(7)」には、編集者(寺川)がこれまで製作してきたものの中から、第4号に掲載しましたパーパークラフト(バイク)に続き、シーカヤックと鳥凧を取り上げました。今号の2作品は、自分で「作り上げる楽しさ」と、作り上げたものを使って「遊ぶ楽しさ」の両方を味わえるものです。

「シーカヤック」は手間がかかりますが、「鳥凧」は近くにある工具や材料で制作できますので、一度挑戦してみたいかたがでしょう。書籍も販売されています。

\*学園関係の作品を紹介するコーナーです。所属の広報担当者まで連絡下さい。

## シーカヤック



完成したシーカヤック全景

耐水ペニヤ製の制作キットを購入。各 부품の切り出し、接合(特殊な接着剤とテープ)、接合部からの浸水防止のためのコーキング、船体塗装等の過程を経て完成。1か月ほどかかりました。近隣小学校のプールで進水式をさせていただきました。このカヤックを使い、琵琶湖の「西湖」や「水郷巡り」、奈良県にある「布目ダム」、淡輪の海洋センター等で楽しみました。自分で制作したカヤックに乗り、エンジンや風の力など使わずに自分の力で漕いで水面を切って進む爽快感はやってみないと分からないでしょう。気持ちすっきり。また、目線の位置が日常の高さと違い、水面に近い低い位置から景色を見るので、一本の木を見ても大きく感じ、自然の雄大さを肌で感じることができます。「視点」を変えれば、違うものが見えてくる(考え方も変わる)ことに通じるものがあるように思います。このカヤックは、3mm耐水合板でできていますが、1枚下はどの程度の深さ分からない水の上、不安になることもままあります。しかし、自分の制作の腕を信じて……。本カヤックは東大阪大学附属幼稚園に寄贈しています。



↑ 上: 琵琶湖西湖にて



↑ 上: 近江八幡水郷めぐり



↓ 下: 布目ダム湖にて

## 鳥 凧



↑ 上: 平城宮跡にて

世界には様々な凧があり、昔から遊びだけでなく仕事にも使われてきたこともあります。今回紹介する鳥凧は、本物の鳥と同じ機能を持つ凧です。当然のことですが翼を動かして推力を得ることはできません。鳥は翼を動かし、また風を利用して、翼断面で生ずる揚力を生み出し、飛翔しています。鳥凧は翼の翼断面を利用し、そこから生み出される揚力で上げます。従って、少しの風があれば、走らなくても手元から糸を繰り出すだけで上がっていきます。(右の写真を見ればわかると思います)

この鳥凧は立体凧です。胴体部分も鳥のように空気抵抗を少しでも減らせるように紡錘形をしています。高く上がると、鳥と見分けがつかせません。上げていると、近くにいた子どもたちが、「あんなとこに大きな鳥がいる!」と言ってくれていました。「優越感」「満足感」

この凧は、左右のバランスが大切です。糸目は一本なので、バランスが悪いと上がりにくくなります。前後のバランスも大切です。写真の鳥凧は、鷹をモチーフに作りました。翼は、持ち運びしやすいように着脱可能です。制作のための材料は、形を作るための「籐」、強度を得るための「檜の平板」「竹の平板」「竹ひこ」、接合材として「木工用ボンド」「瞬間接着剤」「木綿糸」、「和紙(障子紙)」、工具としてニッパやカッターナイフ、はさみ等が必要です。近くにあるもので制作できます。

題材となる鳥は、あまり翼を動かさず風の力を借りて飛び、猛禽類(鷲、鷹、鷹)カモメ、ハクチョウなどが向いていると思われまます。一度試してみてください。

## ★編集後記

学園の木々には、子ども頃獲れたらうれしかった「クマゼミ」がたくさんとまり、朝から騒々しく鳴いています。素手でつかめる程です。昔前の定番「アブラゼミ」はどこに行ってしまったのでしょうか?温暖化の影響かな?



また、一時期感染者の減少が見られていましたが、7月入り急速に感染者が拡大の一途をたどっている新型コロナウイルス。一日の感染者数が200人を超えてしまいました。PCR検査の増加がその一因であるように報道されていますが、症状の軽重はあるもののその人数は確実に感染している状況であることは間違いない事実です。特定の場所での感染から、市中や家庭内での感染拡大が懸念される状況になってきています。「三密」を避け、換気を良くし、手洗いやうがい等、健康面に気をつけ感染を予防しましょう。

今号一面には新生徒寮(アスリート寮)建設の記事を掲載いたしました。民間会社とのコラボレーションによる生徒寮の建設。互いのニーズが合致(学園側が強引だったかも?)する中で成り得たもので、新しい施設運営の一つの方向ではないかと思えます。親元を遠く離れ勉学にスポーツに打ち込もうと思っている生徒たちに、より快適な生活環境を提供することは、親の立場に立っても生徒の立場に立っても、安全で安心して健康的な生活を送ることができ良いことだと思えます。来年の竣工に向けて建設工事の進行を見守りたいと思います。

二面にはNY在住のアーティスト中山誠弥さんに寄稿してもらった自身の生き方を特集しました。第五号に紹介した東大阪大学柏原高等学校を卒業した生徒の生き方(進路選択)と併せてお読みいただき、節目に立つ各人の選択の一助になれば幸いです。

編集者 寺川 誠



https://murakami-gakuen.jp/ https://murakami-gakuen.jp/